

平成31年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査

本県の結果と今後の対策

【小学校】

令和元年 11月27日

青森県教育庁学校教育課

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査
本県の結果と今後の対策【小学校】

目 次

I 全体概要	1
1 調査の概要	1
2 教科ごとの状況	1
3 質問紙調査結果から見える要因	2
II 国語	3
1 教科全体の結果	3
2 領域別の正答率	3
3 問題別集計結果	4
4 問題別集計結果の状況	5
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況	6
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況	6
7 指導改善のポイント	7
＜平成30年度県学習状況調査を踏まえて（国語）＞	9
III 算数	10
1 教科全体の結果	10
2 領域別の正答率	10
3 問題別集計結果	11
4 問題別集計結果の状況	12
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況	13
6 学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況	14
7 指導改善のポイント	15
＜平成30年度県学習状況調査を踏まえて（算数）＞	16
IV 質問紙調査	17
1 児童質問紙調査の結果と今後の対策	17
2 学校質問紙調査の結果と今後の対策	22

* 本報告書の活用に当たって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものです。

また、本報告書の活用に当たっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立ててください。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、すべての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（CD-ROM版）を参照してください。

さらに、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」が掲載されているので、併せて活用してください。

* 本報告書の用語や記号等について *

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用している。

「全国平均との差」

：「今年度の本県の平均正答率－今年度の全国の平均正答率」の式で求めた値。本県が全国平均を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示している。

「前年度との差」

：「今年度の本県の平均正答率－平成30年度の本県の平均正答率」の式で求めた値。今年度が平成30年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示している。

「過年度との差」

：隔年で質問されている項目へ対応するため、「今年度の本県の平均正答率－平成29年度の本県の平均正答率」の式で求めた値。今年度が平成29年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示している。

※本県の平均正答率は「%」で、過年度との差については「ポイント」で表している。

「□」：概況を示す。

「▼」：課題を示す。

「◆」：今後の方向性や対策・指導等を示す。

「★」：肯定的な回答と教科の相関があることを示す。

「数字」：本県の正答率が、対比している値に対して5ポイント以上下回っていることを示す。

I 全体概要

1 調査の概要

(1) 調査日時

平成31年4月18日(木)

(2) 調査内容(教科、質問紙調査)

① 教科

小学校 国語(45分) 算数(45分)
中学校 国語(50分) 数学(50分)
英語【聞くこと・読むこと・書くこと】(45分)
英語【話すこと】(15分) ※準備や移動に要する時間を含む

② 質問紙

児童生徒質問紙
学校質問紙

(3) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 283校(全国 19,263校)
中学校参加校数 本県 155校(全国 9,513校)

(4) 参加児童生徒数

小学校児童数 本県 9,401名【国語】(全国 1,028,203名)
9,402名【算数】(全国 1,028,177名)
中学校生徒数 本県 9,759名【国語】(全国 938,797名)
9,755名【数学】(全国 938,887名)
9,760名【英語】(全国 938,888名)

2 教科ごとの状況

本県の公立小・中学校の児童生徒の学力の状況は、全ての教科で、平均正答率が全国平均を上回るか同程度であり、概ね良好な状況にあります。

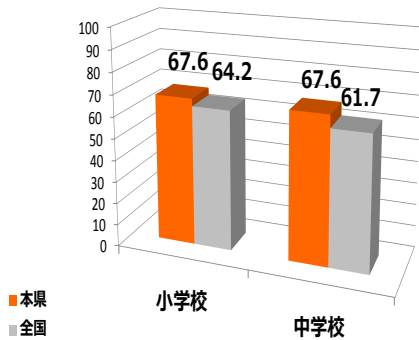
	令和元年度	
	平均正答率(%)	
	青森県(公立)	全国(公立)
小学校国語	70	63.8
小学校算数	67	66.6
中学校国語	73	72.8
中学校数学	61	59.8
中学校英語	55	56.0

3 質問紙調査結果から見える要因

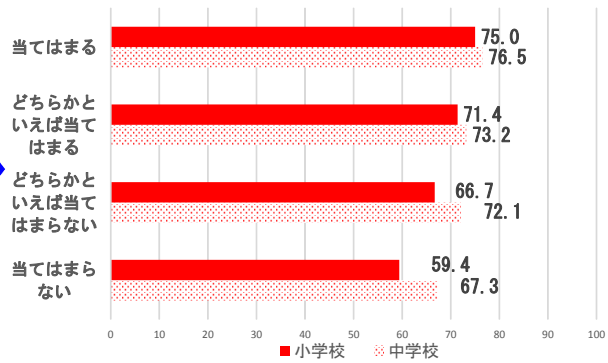
ここでは、本県の調査結果に係る要因の1つとして「各教科に対する興味・関心について」取り上げています。その他の要因等については、各教科の頁を御参照ください。

要因につながるデータ

【国語の勉強は好きか】

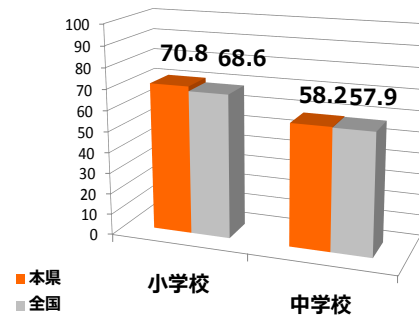


「国語の勉強が好き」への本県の回答別平均正答率(小・中学校)

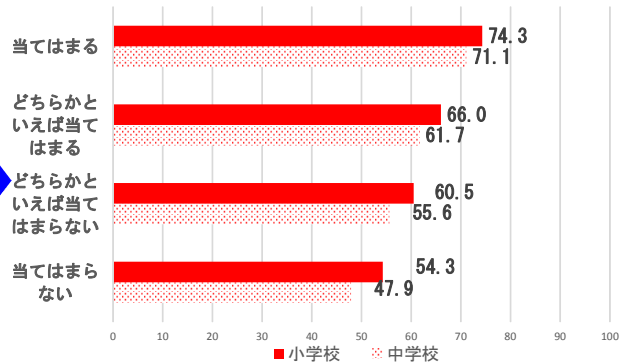


【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合 (%)】

【算数・数学の勉強は好きか】

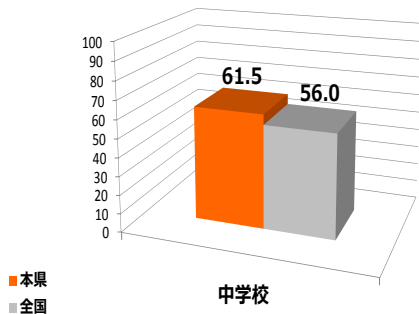


「算数・数学の勉強が好き」への本県の回答別平均正答率(小・中学校)

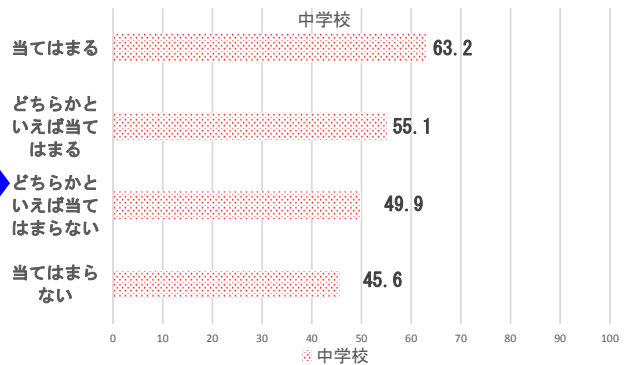


【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合 (%)】

【英語の勉強は好きか】



「英語の勉強が好き」への本県の回答別平均正答率(中学校)



【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合 (%)】

- 本県の児童生徒は、各教科の学習に対する関心が全国平均を上回っている。
- 各教科の学習に対する関心が高い児童生徒は、各教科における平均正答率も高い傾向にある。
- ◆今後も、児童生徒の各教科の学習に対する興味・関心を高める働きかけを工夫することが肝要である。

II 国語

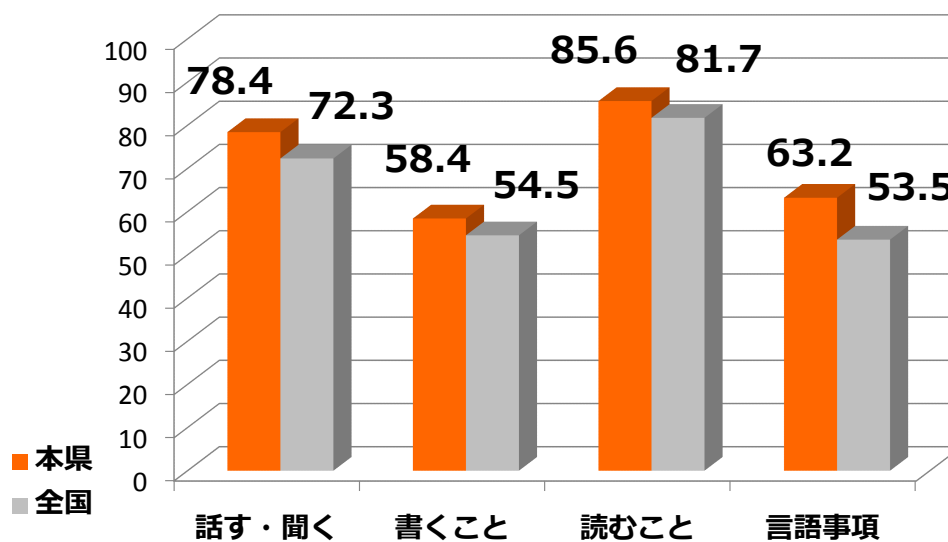
1 教科全体の結果

国語の平均正答率		
青森県	全国平均との差	前年度全国平均との差
70	+6.2	

□国語全体としては、本県は、全国平均を上回っている。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率		
		青森県	全国平均との差	前年度全国平均との差
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	78.4	+6.1	
	書くこと	58.4	+3.9	
	読むこと	85.6	+3.9	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.2	+9.7	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	64.9	+7.3	
	話す・聞く能力	78.4	+6.1	
	書く能力	58.4	+3.9	
	読む能力	85.6	+3.9	
	言語についての知識・理解・技能	63.2	+9.7	



□全ての領域において、全国平均を上回っている。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			(参考※) 従来の区分	問題形式			正答率			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式	記述式	青森県
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	図表やグラフなどを用いた目的を捉える	5・6 エ				○		○	○	○				72.2	71.2	1.0
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える	5・6 ウ				○		○	○	○				69.4	63.4	6.0
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	5・6 ウ			○	○			○		○			33.7	28.8	4.9
1四(1) ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部アを、漢字を使って書き直す(調査のたいしょう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う		5・6 (1)ウ (7)				○	○	○	○		○		53.5	41.9	11.6
1四(1) イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部イを、漢字を使って書き直す(友達にかざらず)			5・6 (1)ウ (7)				○	○	○	○		○		79.9	69.4	10.5
1四(1) ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)			5・6 (1)ウ (7)				○	○	○	○		○		47.9	35.6	12.3
1四(2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□の文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く		3・4 (1)イ (7)				○	○	○	○		○		56.0	47.8	8.2
2一(1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□アに入る、[疑問に思ったこと]の①に対する答えとして適切なものを選択する	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む		5・6 ウ				○	○	○	○				82.5	80.7	1.8
2一(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□イに入る、[疑問に思ったこと]の②に対する答えになるように考えて書く				5・6 ウ		○		○	○	○		○			81.4	75.9
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む		5・6 イ				○	○	○	○				92.9	88.5	4.4
3一	量職人への【インタビューの様子】の□アに入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする	5・6 エ				○		○	○	○				85.1	81.3	3.8
3二	量職人への【インタビューの様子】の□イの場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	目的に応じて、質問を工夫する	5・6 エ				○		○	○	○				70.6	67.4	3.2
3三	【インタビューの様子】の□イに、量職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	5・6 エ			○	○			○		○			79.6	68.2	11.4
3四	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の□ウに入る適切なものを選択する(留より慣れよ)	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる		3・4 (1)ア (イ)				○	○	○	○				78.5	73.0	5.5

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
【1四(1)ア】対全国比：+11.6 【1四(1)イ】対全国比：+10.5
【1四(1)ウ】対全国比：+12.3)

○話すこと・聞くこと

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。(【3三】対全国比：+11.4)

▼課題であること

※全国平均を上回っているが、平均正答率が低いもの

▼書くこと

- ・「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」【1三】(正答率：33.7%)

▼伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」【1四(1)ア・ウ】(正答率：ア53.5% ウ47.9%)
- ・「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと」【1四(2)】(正答率：56.0%)

学習指導に当たって

書くこと

- ・誰に何を伝えるのかといった目的を明確にして書く。
- ・事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりする。
- ・文章の種類や特徴を踏まえて書く。
- ・調べて分かった事実の中からふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書く。
- ・調べた目的と、調べた結果に基づく自分の考えとがずれることのないように書く。
- ・文章全体の構成を踏まえて書く。
- ・敬体と常体が混在していないか読み直して統一することができるようにする。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

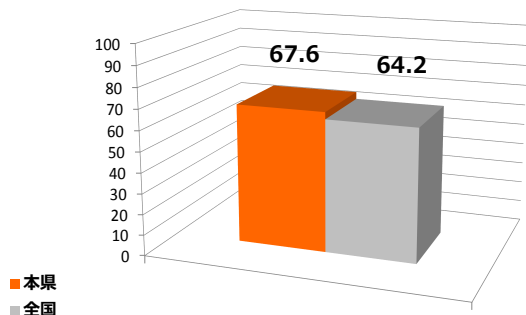
- ・日常的に文や文章の中で適切に漢字を使うことができるようにする。
- ・新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することだけにとどめずに、自分が書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるようにする。
- ・文章を書く様々な機会を捉えて、文脈に沿って接続語の役割を理解するとともに接続語を使って文を分けて書く指導を工夫する。
- ・書き直す前と後の文を比べ、接続語を使って複数の文に分けて書き直したことで、伝えたいことがより明確になったという実感をもつことができるようにする。
- ・同音異義語については、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにする。

5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況

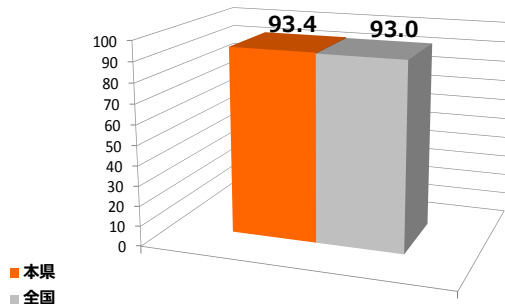
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合（％）】

□児童の国語学習に対する興味・関心や授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、国語の勉強が好きだと思う児童は全国平均を上回っている。
□約9割の生徒が、国語の授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。

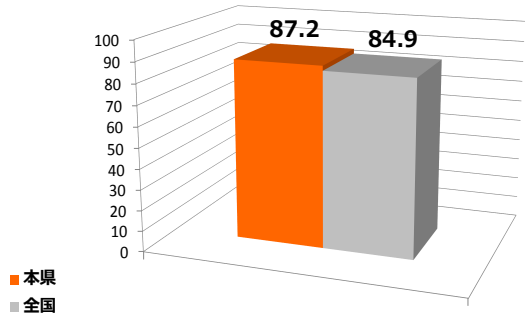
【(37) 国語の勉強が好きか】



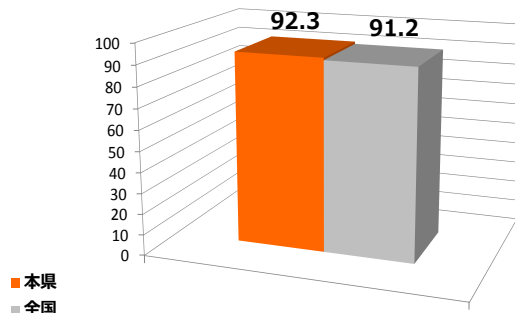
【(38) 国語の勉強は大切な】



【(39) 国語の授業はよく分かる】



【(40) 国語の授業で学習したことは、将来役に立つと思う】

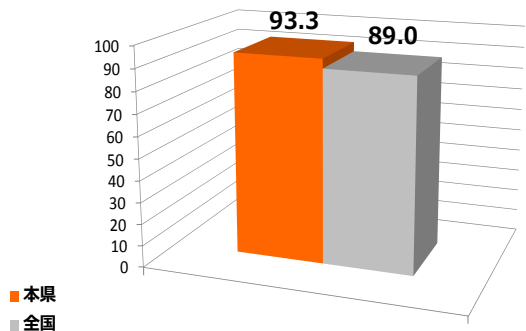


6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況

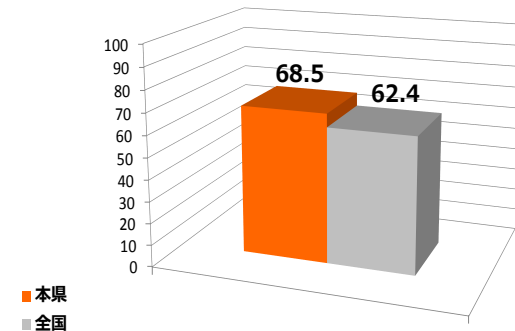
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

□教員の国語指導に対する取組の意識は全国と同程度で9割を超している。
▼発展的な学習の指導は、全国平均を上回っているものの7割に達していない。

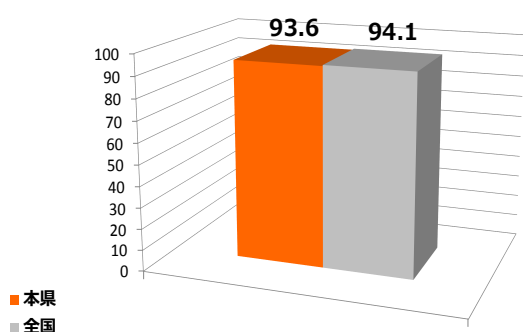
【(39) 補充的な学習の指導を行った】



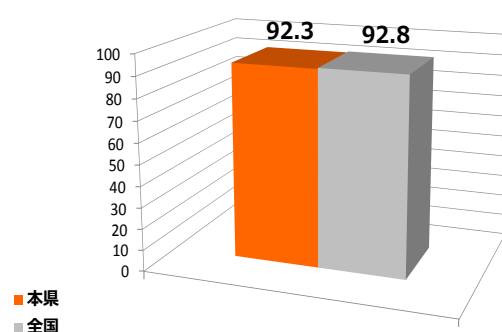
【(40) 発展的な学習の指導を行った】



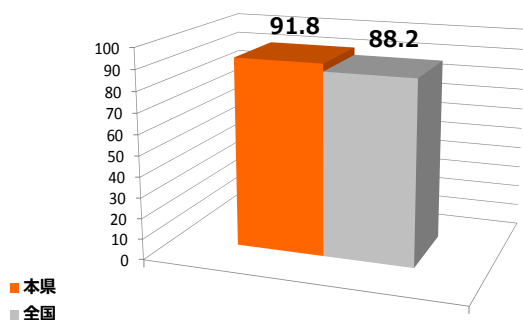
【(4 1) 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った】



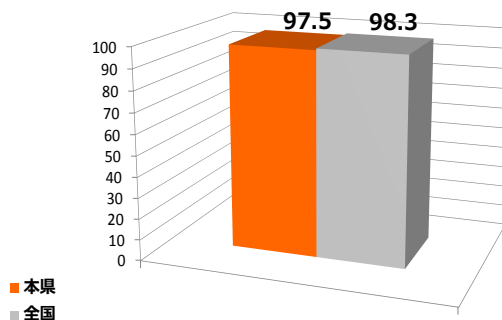
【(4 2) 書く習慣を付ける授業を行った】



【(4 3) 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った】



【(4 4) 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った】



7 指導改善のポイント

(1) 各領域について（平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書より）

話すこと・聞くこと

◆ 必要な情報を得るために、目的に応じた質問をする指導の工夫

- 必要な情報を収集する手段としてインタビューをすることは、国語科の学習のみならず、他教科等においてもその機会が多いものと考えられる。インタビューをする際には、得た情報をどのように活用するのか、そのために自分が必要とする情報は何か、などの目的を明確にし、誰に何を聞くのかを十分に検討するように指導することが特に重要である。
- 明確な目的のもとでインタビューをしようとするときには、相手から話を聞き出すために質問を工夫するなど、主体的に聞こうとする姿が期待できる。その際、児童の必要に応じて、質問の仕方を適時指導していくことが効果的である。例えば、自分の理解が曖昧なときには、再度説明を求める質問やそこまでの自分の理解を確認する質問等、相手が答えにくそうなときには、言葉をかえて聞き直したり具体例を挙げて聞いたりする質問等が考えられる。
- 学習の場面では、どのようなときにどのように質問をすることが適切か、その質問の仕方にはどのような効果があるのかを具体的に理解し、実際にインタビューをする場で生かすことができるように指導することが大切である。

書くこと

◆ 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く指導の工夫

- 調査したことを報告する文章では、調査の結果を基に自分の考えを書くことになる。その際、誰に何を報告するのかといった目的を明確にした上で、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめるのかを考えて書くように指導することが大切である。
- 調査した目的と調査の結果から考えた自分の考えとがずれないように、書き進める中で見直していくように指導していくことが必要である。調査したことを報告する文章は、調

査する内容が特に重要となる。児童の「調べて報告したい」という思いを大切にするために、国語科の学習のみならず、他教科等の学習内容にその題材を求めたり、総合的な学習の時間で行った調査活動の結果を、国語科の「書くこと」の学習で生かしたりすることも効果的である。

読むこと

◆ 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む指導の工夫

- 調べる学習の際には、図鑑や事典などを利用する機会が多くある。図鑑や事典などの利用については、目的に応じていろいろな種類のものを選んで読むことが効果的である。その際、目次や索引を利用して読むことができるように指導することが重要である。目次や索引の利用は、選書の際に役立つ他、本や文章全体から必要な情報を見付けるための効果的な読み方につながっていく。目次や索引のそれぞれの特徴を理解し、自分の目的や状況に応じて使い分けることができるように指導していくことが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◆ 同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使う指導の工夫

- 高学年になると、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加するため、文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導することが重要である。間違いやすい同音異義語については、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れ、文や文章の中で正しく使うことができるように指導していくことが大切である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

話すこと・聞くこと

- 目的や相手に応じて話したり聞いたりする活動の充実を図ることが大切である。

書くこと

- 目的に応じて自分の考えを書くときに、自分の考えがうまく伝わるように根拠を示し、話や文章の組立てを工夫させるなどし、書く習慣をつけることが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 漢字・語句など基礎的・基本的な事項の定着を図ることが大切である。

<平成30年度県学習状況調査を踏まえて（国語）>

平成30年度県学習状況調査実施報告書において、本県の小学生は「読むこと」に課題があると分析した。

説明的な文章については、問題の条件を踏まえた複数の情報の比較、非連続型テキストと連続型テキストの比較や読み取りが不足していることが考えられる。今後の指導に当たっては、児童自身の目的意識や必要感を十分に喚起しつつ、文章の大体を捉えさせ、文と文の関係や段落相互の関係に注目して情報を見付けさせたり、複数の情報を比較させたり、目的に応じて要約させたりすることが大切である。なお、その際には、複数の資料を使ったり、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」と関連させて指導したりすることも大切である。

また、文学的な文章については、人物の行動や会話、地の文などの複数の叙述を関係付けて人物の心情や行動、人物像を捉えることが不足していることが考えられる。今後の指導に当たっては、一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、物語全体を見通して、複数の場面の叙述を相互に関係付けながら読むことが大切である。さらに、「叙述を基にしてどう考えたのか」という理由を付けて話し合いをすることで、それぞれの考えが自分の体験や読書経験に基づいていたり、他の叙述と関係付けられていたりすることに気付くことができるように指導することが大切である。

【平成30年度学習状況調査実施報告書より】

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査では、「読むこと」については、3問出題され、本県は全国平均と同程度か上回る結果となった。今後の指導に当たっては、目的を明確にした上で、文章に書かれている話題、筆者の考えとその理由や事例となっている内容、構成の仕方などに注意しながら、表現に即して重要な点を的確に押さえて読むことの指導を継続したい。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・平成30年度学習状況調査実施報告書
- ・平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書
- ・平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

Ⅲ 算数

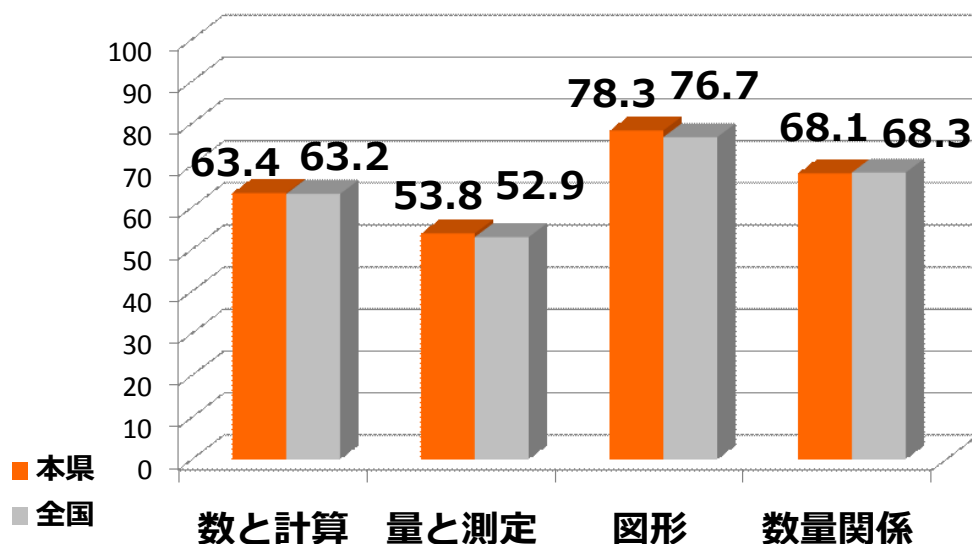
1 教科全体の結果

算数の平均正答率		
青森県	全国平均との差	前年度全国平均との差
67	±0	

□ 算数全体としては、本県は、全国平均と同程度である。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率		
		青森県	全国平均との差	前年度全国平均との差
学習指導要領の領域	数と計算	63.4	+0.2	
	量と測定	53.8	+0.9	
	図形	78.3	+1.6	
	数量関係	68.1	-0.2	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	63.1	+0.9	
	数量や図形についての技能	74.0	+0.4	
	数量や図形についての知識・理解	69.8	-0.3	



□ 全ての領域において、平均正答率は全国と同程度である。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点					(参考※) 従来の区分			問題形式			正答率		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	知識に関する問題	活用に関する問題	選択式	短答式	記述式	青森県	全国	全国との差	
1(1)	長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選ぶ	台形について理解している			4(1) アイ					○	○	○	○				94.7	93.1	1.6
1(2)	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ	図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる			4(1) イ 5(1) イ					○		○	○	○			62.0	60.3	1.7
1(3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる		5(1) ア					○			○		○			46.7	43.9	2.8
2(1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる			3(3) ア					○		○	○	○			95.9	95.2	0.7
2(2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる	4(3) イ		3(3) ア					○		○	○	○			79.4	78.6	0.8
2(3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる		5(4) ア	3(3) ア				○			○		○			49.3	52.1	-2.8
2(4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	4(5) ウ		4(2) ア					○		○	○	○			58.7	60.1	-1.4
3(1)	$350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる	3(2) イウ						○				○				82.4	81.8	0.6
3(2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなものかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	3(2) ウ 4(3) エ						○				○				32.1	31.1	1.0
3(3)	被除数と除数にける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる	4(3) イエ						○			○	○				79.1	74.9	4.2
3(4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している	5(3) アイウ		3(1)							○	○	○			44.9	47.0	-2.1
4(1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ	目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる			4(1)					○			○				82.9	82.7	0.2
4(2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求め式を書く	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる	3(3) イ						○			○					67.0	68.6	-1.6
4(3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する	場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる		5(4) ア	5(1) ア				○				○				65.5	62.6	2.9

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○図形

- ・台形について理解している。
（【1（1）】対全国との差：+1.6）
- ・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる。
（【1（2）】対全国との差：+1.7）

○量と測定

- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。
（【1（3）】対全国との差：+2.8）

○数と計算

- ・示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる。
（【3（3）】対全国との差：+4.2）

○数量関係

- ・場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる。
（【4（3）】対全国との差：+2.9）

▼課題であること

▼数量関係

- ・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。
（【2（3）】対全国との差：-2.8）
- ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。
（【2（4）】対全国との差：-1.4）

▼数と計算

- ・示された計算の仕方を解釈し、減棒の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できる。
（【3（2）】正答率：32.1%）

▼数と計算

- ・示された除法の式の意味の理解している。
（【3（4）】対全国との差：-2.1）
- ・示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる。
（【4（2）】対全国との差：-1.6）

学習指導に当たって

数と計算

- ・適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見出し、表現することができるようにする。
- ・小数や分数の除法や同じ大きさを表す分数などの学習場面においても、除法に関して成り立つ性質が用いられていることを確認する。
- ・日常生活の問題の解決のために、多くの情報の中から必要な数量を見だし、数学的に表現することができるようにする。

量と測定

- ・ 図形の合成や分解などの図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を、既習の求積公式を活用して求め、求め方について説明することができるようにする。
- ・ 面積や体積の求め方を考える場面で、図形と式とを関連付け、面積や体積の求め方について説明し合う活動を取り入れる。

数量関係

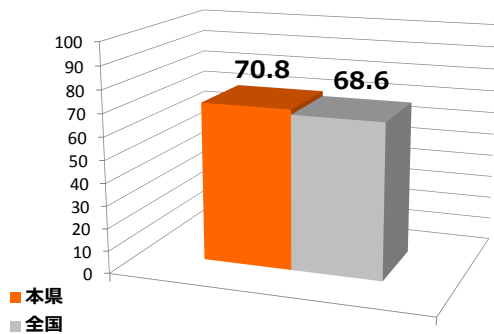
- ・ 目的に応じて、必要な資料を収集し、グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるようにする。
- ・ 複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事例についても判断することができるようにする。
- ・ 四則を混合させたり（ ）を用いたりして一つの式に表すことができるようにする。
- ・ 計算の順序によって式の意味が異なることに気付くことができるようにする。

5 児童質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

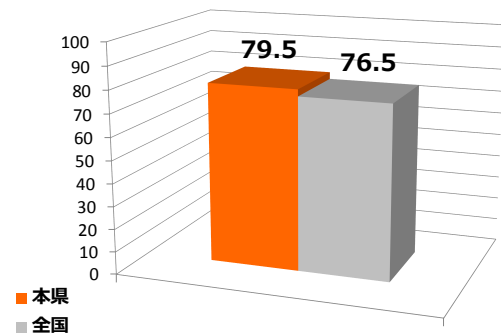
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合（％）】

- 算数に関する児童の質問紙調査の結果は、概ね全国と同程度である。
- 児童の算数に対する興味・関心や授業の理解度等は良好な状況にあり、新しい問題に出合ったとき解いてみたいと思う児童や公式やきまりのわけを理解しようとする児童が8割を上回っている。

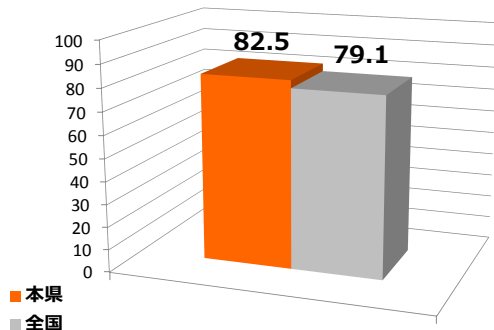
【(46) 算数の勉強が好きか】



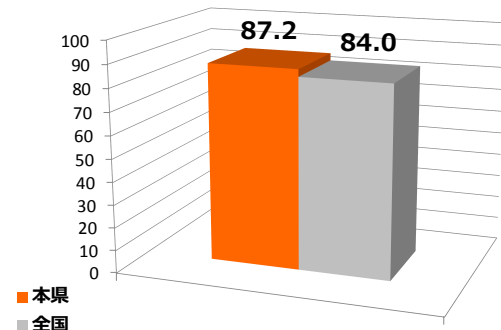
【(50) 生活の中で活用しようとする】



【(51) 新しい問題を解いてみたい】



【(54) 公式やきまりのわけを理解しようとする】

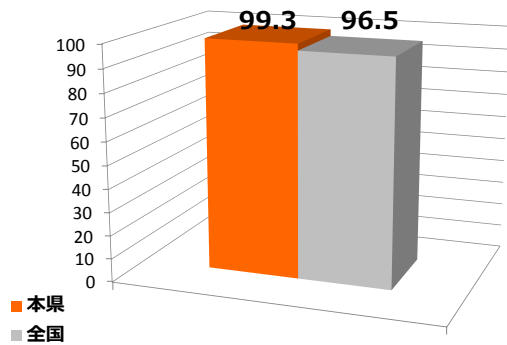


6 学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況

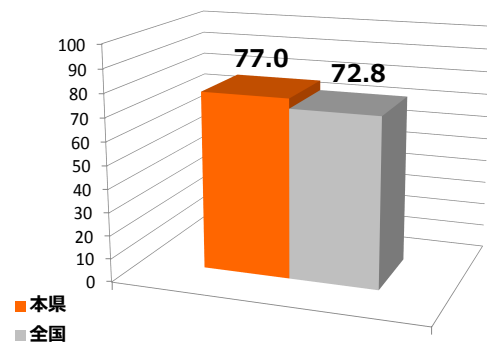
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

- 算数の指導に関する調査結果は、いずれも全国を上回るか同程度である。
- 算数の指導として、ほとんどの学校で補充的な学習や計算問題などの反復練習をする授業が行われている。
- 前年度までに、発展的な学習を行った学校は、全国平均より4.2ポイント上回っている。

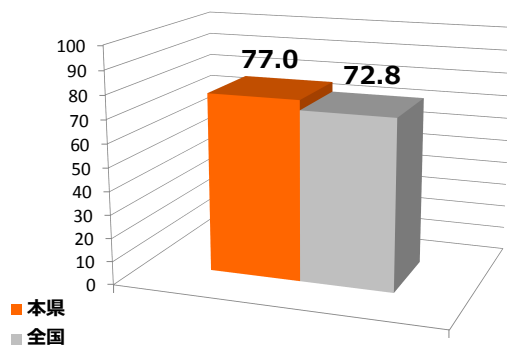
【(45) 前年度までに、補充的な学習を行った】



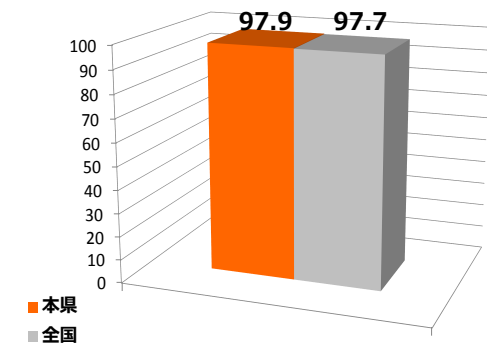
【(46) 前年度までに、発展的な学習を行った】



【(47) 前年度までに、実生活における事象と関連を図った授業を行った】



【(48) 前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行った】



7 指導改善のポイント

(1) 各領域について ※平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書より

数と計算

- ◆ **数を多面的にみて、計算を能率的にするために工夫することができるようにする指導の充実**
 - ・ 計算をする際には、その計算が確実にできるとともに、必要に応じて、数の相対的な大きさを捉えたり、一つの数をほかの数の積としてみたりするなど、数を多面的にみて、計算に関して成り立つ性質を活用することで、計算を能率的にするために工夫することができるようにすることが重要である。

量と測定

- ◆ **場面の状況に応じて、数理的に捉え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断することができるようにする指導の充実**
 - ・ 日常生活において、場面の状況に応じて、物事を判断したり、解決過程や結果を振り返り、判断したことをより適したものに改善したりすることができるようにすることが重要である。その際、場面の状況を解釈し、数量の関係に着目して筋道を立てて考え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断することができるようにすることが大切である。

図形

- ◆ **図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察・構成することができるようにする指導の充実**
 - ・ 図形の性質や構成要素に着目して考察し、基本的な平面図形について理解できるようにすることや、色板などの具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにすることが重要である。

数量関係

- ◆ **資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したりすることができるようにする指導の充実**
 - ・ 日常生活において、目的に応じて、必要な資料を収集し、グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるようにするとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄についても判断することができるようにすることが重要である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

児童質問紙

- ◆ **多様な考えを認め合い、問題を解決する過程を大切にした指導の充実**
 - ・ 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」
「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」
このように回答している児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られ、本県はどちらも全国を2～3ポイント上回っている。算数に関する全ての質問事項から、児童の算数に対する興味・関心や授業の理解度等、全体的に良好な状況にあるので、今後も多様な考えを認め合う指導や問題を解決する過程を大切にする指導を継続していくことが大切である。

◆ **学習内容をさらに深めたり広げたりすることができる発展的な学習の指導の充実**

- ・ 「算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行った」
このように回答している学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られ、本県は全国を4ポイント上回っている。児童が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童や学校の実態を捉えて、児童の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習を取り入れるとともに、今後も学習したことを活用して深めたり広げたりできる発展的な学習の指導を充実させていくことが大切である。

＜平成30年度県学習状況調査を踏まえて（算数）＞

平成30年度学習状況調査実施報告書において、本県の小学生は「数と計算」と「量と測定」に課題があると分析した。

「数と計算」については、概数の意味や四捨五入の仕方について、題意をきちんと把握し、条件を満たすような数について筋道立てて考える力に課題があり、正しく情報を読み取る力や、数直線を用いて行う話し合いを通して、四捨五入して指定された概数になる数の範囲を捉える力を向上させる指導が大切であるとした。

「量と測定」については、複合図形の面積の求め方について、問題解決の過程を表現したり、読み取ったりすることに課題があり、対話的な学びを通して、図や言葉から他者の考えを読み取る力を身に付けさせるとともに、数学的に表現することのよさを実感させることが大切であることから、多様な考えを取り上げ児童の思考を深めさせるという視点で授業改善を行うことが必要であるとした。

【平成30年度県学習状況調査実施報告書より】

平成31年度全国学力・学習状況調査では、「数と計算」については、直接的に概数の意味や四捨五入の理解を問う問題はなかったが、「数と計算」の領域の県の平均正答率は、63.4%と全国と同程度であり、その中でも計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を表現することに課題があった。

指導に当たっては、計算をする際に、その計算が確実にできるとともに、計算に関して成り立つ性質を活用することで、計算を能率的にするために工夫することができるように指導することが大切である。

「量と測定」については、図形（台形）の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題において、全国を2.8ポイント上回っているものの正答率は46.7%と低く、図形と式とを関連付け、筋道を立てて考察し表現することに引き続き課題が見られた。

指導に当たっては、図形の合成や分解など図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を、既習の求積公式を活用して求め、求め方について、数の意味や演算の意味などを、図形と関連付けて説明することができるように指導することが大切である。

※授業改善の具体例は、以下を参照。

- ・平成30年度学習状況調査実施結果報告書
- ・平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書
- ・平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

IV 質問紙調査

質問紙調査の結果については、以下の視点で分析を行った。

- ・良好な状態を把握するために、
 - 全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上上回ったか。
 - 望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）か。
- ・課題となっている状況を把握するために、
 - ▼全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上下回ったか。
 - ▼望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）か。

1 児童質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した児童は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 基本的生活習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
1 朝食を毎日食べているか（★） [[している]「どちらかといえば、している」の合計]	96.2	+0.9	+1.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 朝食を毎日食べている児童の割合は、全国平均をやや上回っている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 道徳や特別活動など、さまざまな機会を通じて、具体的な事例を示し、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるようにする。
- ◆ 保護者集会や各種通信等を通じて、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるよう、家庭との連携を一層図る。

(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
15 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	98.0	+0.9	-0.1
16 人の役に立つ人間になりたいと思うか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	96.1	+0.9	-0.4
9 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはあるか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	95.5	+0.3	+0.2
7 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	94.0	+2.3	+3.1
13 学校のきまりを守っているか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	94.0	+1.7	+1.6

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

いじめはいけないことだと認識している児童の割合が、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ あらゆる機会を通じて、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を徹底させるとともに、引き続き、児童同士の心の結び付きを深め、社会性を育む活動を推進し、いじめの未然防止を図る。
- ◆ 学級内や学校行事で一人一人に役割を与えたり、活躍できるような活動を取り入れたりするなど自己肯定感をもたせる指導や自己有用感をもたせる活動を設定し、今後も児童のよさをより一層積極的に評価していく。
- ◆ 学習規律やきまり、約束を守ることの大切さを今後も継続して指導していくとともに、なぜ大切なのかについて児童に考えさせる指導の充実を図る。

(3) 学習習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
19 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしているか 【「1時間以上」の合計】	18.4	+0.1	-1.8 ③⑩
20 昼休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行くか 【「週1回以上」の合計】	18.2	+1.0	+2.9 ②⑨
22 新聞をどれくらい読むか 【「週1回以上」の合計】	21.2	+2.2	-1.3 ③⑩

※「過年度との差」とは、本県の今年度と30年度又は29年度の値の差

▼ 普段、週1回以上図書館に行ったり、1時間以上読書をしたりしている児童の割合は、2割に満たないが、全国平均よりもやや高くなっている。

②今後の対策・指導

- ◆ 今後も家庭での学習が計画的・継続的に行われるよう支援するとともに、学ぶことや方法を児童自らが選び、家庭学習に取り組めるよう支援する。
- ◆ 各教科等の指導として、学習したことが読書活動に発展するような授業展開を工夫する。また、その内容を学級通信等を活用して家庭に情報発信し、家庭でも読書習慣を身に付けさせるよう、家庭との連携を図る。
- ◆ NIE等の取組を活用するなど、授業や家庭学習において児童が新聞に触れたり読んだりする機会を設定する。

(4) 地域や社会に関わり活動の状況等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
24 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるか（★） 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	61.3	+6.8	+2.8
26 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うか（★） 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	81.7	+5.6	新規

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童の割合は、全国よりも高い。
- 日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う児童が8割を超えている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

(参考：児童質問紙23より)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
23 今住んでいる地域の行事に参加しているか (★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	64.8	-3.2	+4.5

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合は、全国平均を下回ったが、前年度を上回り、2年連続で増加傾向にある。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 地域の人たちや関係機関の協力を得ながら、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

地域や社会との関わりの質的な充実を図るために

- 各教科等の学習において、新聞の地元に関する記事等を取り扱うなど、適切な題材や場面で地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行う。
- 総合的な学習の時間の学習素材として、地域の行事や祭りなどの地域に関する内容を取り扱い、自分が住んでいる地域に対する興味・関心をもたせるようにする。具体的には、地域の人たちに関わる場を設定したり、地域の自慢できることを検討したりする学習活動を取り入れ、地域のよさを児童自ら再確認することによって、地域の一員としての自覚や参画する意識を育てるようにする。また、地域の人たちとの触れ合いは、児童の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、地域の人材バンクの作成に努める。
- 各教科等で学習した日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国語活動・外国語科の授業における言語活動で活用する。

(5) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

(参考：児童質問紙28より)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
28 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思うか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	88.0	+1.5	新規

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 「授業でコンピュータなどのICTを活用したい」児童が9割近くおり、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が前年度県平均より10ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
27 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか【週1回以上】の合計	34.2	+3.6	新規

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

②今後の対策・指導

◆ 授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

- 児童の各教科等に対する興味・関心が高まるよう、ICTを効果的に活用する。
- プログラミング教育の導入を踏まえ、教師が各教科等の授業においてICTを活用することができるよう、指導力向上を図る。

(6) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
31 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思うか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	70.9	+5.2	-5.1 ⑳
32 学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	81.4	+7.4	新規
33 学級活動における学級での話し合いを生かして今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思うか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	79.4	+6.0	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と30年度又は29年度の値の差

- 学級生活をよりよくするためや、今、自分が努力すべきことを決めるために、学級活動における学級会での話し合いが活用されている割合が全国よりも高い。

【望ましい回答の割合が前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
31 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	70.9	+5.2	-5.1 ⑳

※「過年度との差」とは、本県の今年度と30年度又は29年度の値の差

- 総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる児童の割合が、平成29年度より5ポイント以上下がった。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

- 児童の各教科等に対する興味・関心が高まるよう工夫するとともに、各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面を授業に位置付けるようにする。
- 児童の実態、学習の目標や内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫しながら考えや意見を発表し合う機会を意図的に設け、どの児童にも自分の考えを相手に伝える体験をさせる。また、友達の意見を共感的に聞けるよう、引き続き、話しやすい学級の雰囲気づくりにも心がけ、児童が自信をもって話すことができるようにする。

2 学校質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した学校の児童は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
11 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	91.5	+8.3	-0.2
50 教員は、特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導上の工夫を行ったか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	95.8	+0.7	+5.8

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導が9割以上の学校で行われている。
- 特別支援教育について理解が深まり、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）がほぼ全ての学校で行われている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
12 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	94.7	-1.9	-2.5
13 学習規律の維持を徹底したか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	96.5	-0.4	-1.8
14 学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	100	+1.2	+1.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたり、学習規律の維持を徹底したりした学校は9割を超えているが、前年度よりも低い割合となっている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
8 児童は、熱意をもって勉強していると思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	87.6	-3.5	-6.4

※「過年度との差」とは、本県の今年度と30年度又は29年度の値の差

- 平成29年度の質問紙調査では9割を超えていたが、平成31年度の質問紙調査では6.4ポイント低い87.6であった。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

主体的な学習態度を育てるために

- 児童の問い・驚き・気付きを大事にし、児童にとって分かりやすく課題（めあて）を設定する。
- 一人一人の児童に自分の考えをもたせた上で、グループ学習やペア学習等の話し合い活動の場を設定し、考えを深めさせたり広げさせたりする。
- 振り返りの場では、児童の言葉で学習のまとめをするとともに、学習を通して自分ができるようになったことや分かったことなどを話させ、児童自身に学びを自覚させるようにする。
- 児童が勉強に熱意をもって取り組むことができない要因を多面的に探り、分析するとともに、各教科等の授業では、児童にとって興味・関心を高める工夫を心がける。

(2) カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
15 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列しているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	95.8	+0.7	-1.8
16 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成しているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	97.1	+3.4	+1.3
17 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか（★） 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	98.9	+3.5	-0.1
18 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	100	+0.1	+2.1
19 言語活動について、各教科等を通じて、学校全体で取り組んでいるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	98.9	+1.7	+4.8
20 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	98.6	+3.3	+3.8
21 学校として業務改善に取り組んでいるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	98.6	+0.1	-0.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ ほぼ全ての学校で、カリキュラム・マネジメントの視点に基づいた取組が行われている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 今後も、校長のリーダーシップの下、業務改善に学校全体で取り組むことが肝要である。

(3) 教職員の資質能力の向上

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
26 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加しているか 【よくしている】【どちらかといえば、している】の合計	96.1	+7.9	-0.8

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している割合は全国平均よりも高く、小学校教育研究会への参加率が高いことが考えられる。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
22 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っているか 【よくしている】【どちらかといえば、している】の合計	99.6	+0.3	-0.4
23 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っているか 【よくしている】【どちらかといえば、している】の合計	95.8	+0.9	+1.7
24 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っているか(★) 【よくしている】【どちらかといえば、している】の合計	99.3	±0.0	+4.5
25 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしているか 【よくしている】【どちらかといえば、している】の合計	99.3	+2.3	-0.3
26 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加しているか 【よくしている】【どちらかといえば、している】の合計	96.1	+7.9	-0.8
27 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか(★) 【よくしている】【どちらかといえば、している】の合計	97.5	+3.1	-1.5
28 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っているか 【よくしている】【どちらかといえば、している】の合計	96.1	-1.0	-2.6
29 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしているか 【よくしている】【どちらかといえば、している】の合計	94.4	+2.3	-0.1
30 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか 【よくしている】【どちらかといえば、している】の合計	98.6	+0.3	+0.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、教職員の資質能力向上のため、校内研修等の取組が組織的に行われている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(4) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
33 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	92.2	+2.9	+4.5 ⑳
34 学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	94.3	-0.2	新規
35 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っているか (★) 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	93.2	+0.1	新規
36 特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	97.9	+1.2	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と30年度又は29年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導が行われており、過年度よりもその割合を増やしている。しかし、児童質問紙では、児童が上記のような学習に取り組んでいると回答した割合は約7割であることから、教師と児童の受け止めに差が見られる。
- ほぼ全ての学校で、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導が行われており、児童質問紙の結果との間に相関が見られる。
- ほぼ全ての学校で、特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導が行われている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
38 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	85.2	+0.5	-5.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 多くの学校で、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けているが、前年度を5ポイント以上下回った。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会をあまり設けていないと回答した学校は、教科の平均正答率において、肯定的に回答した学校よりも5ポイント以上低い結果であったため、教科等横断的な視点に基づいた指導の充実が大切である。

(5) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
49 ICTを活用した授業をどの程度行ったか 【週1回以上の合計】	81.7	+0.9	+11.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 授業においてICTを週1回以上活用する学校が前年度を大きく上回った。
- 児童質問紙調査結果によると、本県児童の約9割は「授業でもっとICTを活用したい」と回答している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 各教科等の特質に応じてICTを効果的に活用することができるよう、教師のICT活用能力を高め、授業に積極的に取り入れるようにする。

(6) 小学校教育と中学校教育の連携

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
51 前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行ったか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	72.8	+7.8	+30.1 (29)

※「過年度との差」とは、本県の今年度と30・29年度の値の差

- 平成29年度学校質問紙調査では、5割以下だったが、近隣等の中学校と教育課程に関して共通の取組を行う小学校が大幅に増えている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
53 平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有したか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	55.5	-5.1	+2.5

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有した学校の割合は、全国を5ポイント以上下回っているものの、前年度を上回った。
- 平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有した学校の割合は、平成28年度以降増加している。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 小中連携に当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

小中連携の充実を図るために

- 小・中教職員全体での合同研修会では、授業参観や協議を通して、相互の児童生徒の実態や相互の教育内容、指導方法、指導形態等、現状で行われている教育活動の具体的な取組などを共通理解し、各校の指導のねらい等に対する理解を共有する場にする。
- 小中連携を推進する会議等では、各学校が自校の教育目標の下に進めている教育活動の中での連携の可能性を探ったり、児童生徒の学力に関する課題を共有したりすることで、自校の教育課程の編成に反映させるようにする。
- 研修会や会議等で得た中学校での取組や生徒の現状に関する情報を全教職員で共有し、義務教育9年間を通じて子どもを育てるという意識の下、小学校卒業時までには児童にどのような力を身に付けさせるかという視点も含めて、教育課程の編成に当たるようにする。
- 全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有する機会を設定する。

(7) 家庭や地域との連携等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
54 職場見学や職場体験活動を行っているか 【「行っている」の合計】	54.1	-3.2	+11.2
57 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	69.6	-9.6	+10.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 平成30年度学校質問紙調査では4割程度だったが、職場見学や職場体験活動を行う小学校が増えている。

▼ 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている学校の割合は、全国平均よりも低い、前年度を10ポイント程度上回った。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
56 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加しているか 【「よく参加している」「参加している」の合計】	96.5	-1.3	-0.8

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ ほぼ全ての学校で、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
57 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行ったか(★) 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	69.6	-9.6	+10.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている学校の割合は、全国平均よりも低い。

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満) 質問: なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 地域、学校、児童の実態を踏まえ、必要に応じて、地域の人材を授業に招聘したり、ボランティア等による授業サポートを取り入れたりするなど、地域人材の積極的な活用に努める。
- ◆ 地域の実態を踏まえ、必要に応じて、社会教育施設等の積極的な活用に努める。
- ◆ 今後も学校支援ボランティア活動を推進し、保護者や地域が連携して学校を支援する体制づくりに努める。

(8) 家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
59 前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	97.1	+4.9	+1.6 ③⑩

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解が図られている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度) 質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
59 前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	97.1	+4.9	+1.6 ③⑩
60 前年度までに、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたか。【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	98.6	+3.1	+1.1 ③⑩
61 前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	99.2	-0.1	-0.4 ②⑨
62 前年度までに、国語の指導として、児童が行った家庭学習の課題について、評価・指導したか(★) 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	98.9	+2.2	-1.1

※「過年度との差」とは、本県の今年度と30・29年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、家庭学習に関する取組が行われ、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えられている。
- 児童が行った家庭学習の課題について、評価・指導している学校の割合が全国平均よりも高い傾向が見られた。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問: なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満) 質問: なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 家庭学習は、学習したことを児童に定着させるためには欠かせないものであるため、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

家庭学習を充実させるために

- 家庭学習の課題の与え方について、学校や児童の実態を考慮し、引き続き、学年ごとの基本的な学習時間、教科ごとの学習方法等について教職員間で共通理解を図る。
- 学習内容の定着を図るためのドリルやプリント学習だけではなく、児童の自主的な学習を大事にした課題や、調べたり文章を書いたりする課題を定期的に出すなど、学習の内容や方法を具体的に指導する。
- 引き続き、児童一人一人の家庭学習を積極的に評価し、見本となる児童の家庭学習の方法（ノート等）を紹介するなど、家庭学習の内容が充実するように支援する。
- 家庭学習の習慣化を図るために、学校側から保護者に対して家庭学習に対する考え方を示したり、話し合う場を設けたりして、家庭と協力して取り組む。

(9) 全国学力・学習状況調査等の活用

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
63 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用したか [[よくしている][どちらかといえば、している]の合計]	95.8	-1.5	+1.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果が学校全体で教育活動を改善するために活用されている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
64 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行ったか(★) [[よくしている][どちらかといえば、している]の合計]	79.5	-11.7	-3.6

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った学校の割合は、全国平均を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 全国学力・学習状況調査等の活用については、以下のことを心がけるようにする。

組織的な取組を推進するために

- 調査結果で明らかとなった成果と課題について、保護者参観日の全体会や学校通信等を通じ、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行うとともに、学力向上のための取組について理解と協力を求める。